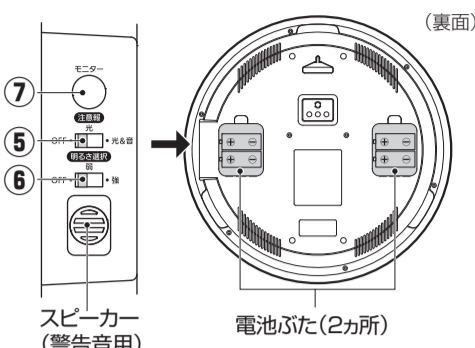
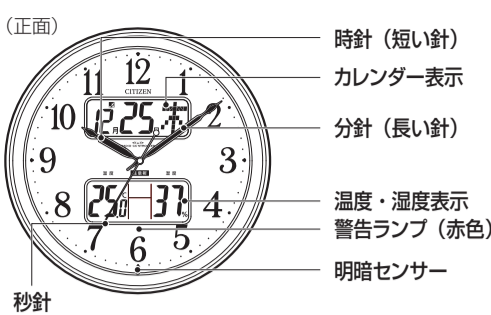




## 各部の名称と役割

図は操作説明用ですので、実際の商品と異なることがあります。



- 強制受信 — 電池をセットした直後に押します。警告スイッチが光または光&音のときは、押すと電子音が鳴ります。電池をセットした直後は2010年1月1日 午前12:00になります。
- 時刻合わせ — 電波が受信できないときなど、手動で日時を合わせるときに使用します。
- 進む — 手動で日時を合わせるときに使用します。
- 戻る — 操作 押してすぐ離す 押し続ける  
進む 1つ進む 早送り  
戻る 1つ戻る 早戻し
- 警告スイッチ 光 (警告ランプ)、光&音による警告を選択します。
- 明るさ選択 明るさの強弱を選択。使用しないときはOFFを選択。
- モニター — 音や光での警告を試すときに押します。

## 明暗センサーのはたらき……………暗所秒針停止、自動照明

明暗センサーが暗いと判別した場合は、秒針が12時位置に停止します。また、明るさ選択スイッチが強または弱のときは照明が点灯します。昼間や夜間の照明時でも明るさが不足するとセンサーが動きます。十分に明るい所で秒針が12時位置で停止している場合は、電池の交換が必要です。

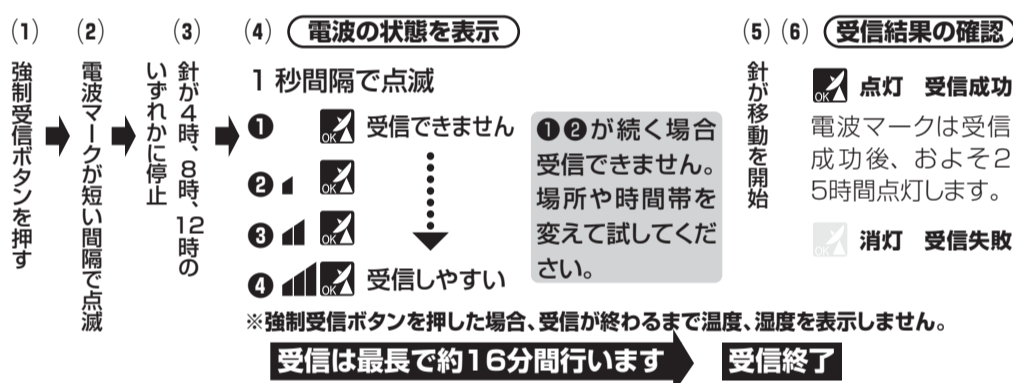
## 電池の交換時期お知らせ機能……………電池マーク表示、秒針が停止

電池の交換時期になると電池マークが表示され、秒針が常時12時位置に停止します。また、標準電波の受信を行いません。このような状態になったときには、速やかに新品の電池にすべて交換してください。

**注意** 電池が液漏れを起こすと時計の修理や壁面の修繕などに費用が発生することがあります。

- 電池からの液漏れや発熱、破裂を防止するために次のことをお守りください。
- 時計が止まったときには、速やかに指定の電池に交換するか、電池を取り出す。
  - 時計が動いていても1年に1回定期的に交換する。
  - 古い乾電池と新しい乾電池、種類の異なる電池を混ぜて使用しない。
  - 電池の⊕/⊖を逆に入れない。

## 標準電波—受信の流れとサーチ機能の使いかた



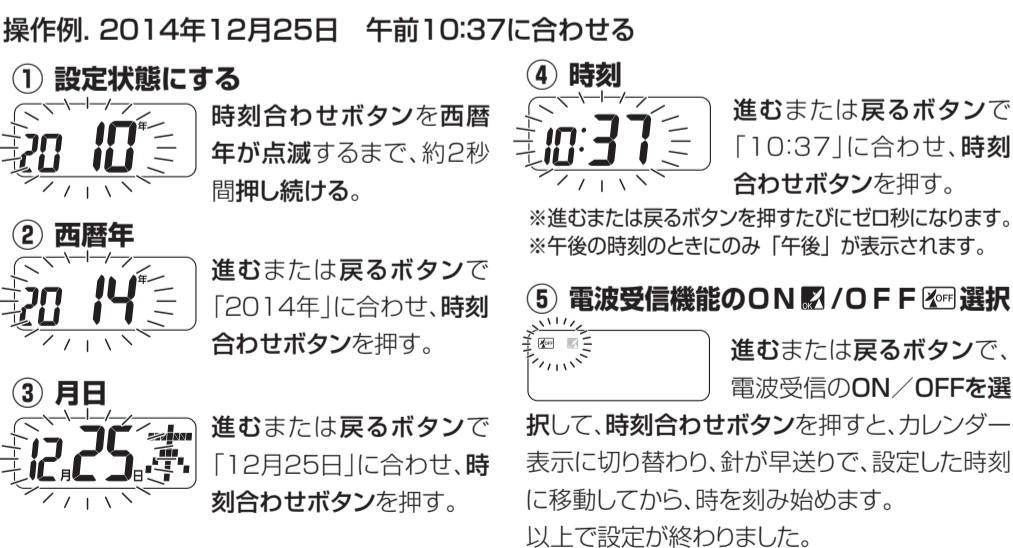
電波サーチ機能の使いかた……………受信しやすい所を探すには  
①窓際やベランダで(4)まで行い、③または④の状態にあることを確認します。  
②時計を掛けたい所に移動して、電波マークで受信状態を確認します。電波マークが①または②のときは、同じ部屋の中でも電波の状態が異なることがありますので、時計の位置を変えてみてください。

## 標準電波を受信できない場合

- 朝までそのまましておく  
一般的に、夜間は電波状態が良くなるので、手動で時刻合わせをして一晩そのままにしておくと受信できる可能性が高くなります。
- 場所を変える／受信をやり直す  
電波の受信しやすい窓ぎわで、取扱説明書の日本地図を参考に、時計の正面または裏面が電波の送信所に向くようにして、強制受信ボタンを押して受信を試みてください。
- 時刻を合わせて使用する  
ベランダなどの屋外で電波の受信に成功させるか、手動で日時を合わせて使用してください。電波を受信できないときの、時間精度はクォーツ精度になります。

## 手動での時刻合わせ… 任意の日時に合わせるときや電波受信機能のON/OFFを設定するとき

操作例に従って設定してください。  
ボタン操作 西暦年、月日、時分を合わせるときは、数値を進むまたは戻るボタンで合わせてから、時刻合わせボタンを押します。



※操作を約1分間中断すると、表示されている内容に設定して、日付の表示に戻ります。  
※電波受信機能をONにした場合、定期的に受信を行い、受信に成功すると日時を修正します。

## 標準電波受信機能のON/OFFについて

標準電波受信機能がONの場合は定期的に受信を行い、受信に成功すると日時を修正します。OFFの場合は受信を行いません。誤受信しやすい所で使用するときや任意の日時に合わせて使用するときOFFにします。電波受信のON/OFF設定は、**手動での時刻合わせ** の操作で行います。

- 電波受信機能がOFFのときに、強制受信ボタンを押すと針は12、4、8時のいずれかに移動し、その後に時刻位置に移動を開始します。必要に応じて手動で日時を合わせてください。
- ※標準電波を受信しない場合の時間精度は、平均月差 ±20秒のクォーツ精度になります。

## 使用方法 電池を入れて、電波を受信して日時を合わせる

手動で日時を合わせる場合は、**手動での時刻合わせ** を参照してください。

- 窓際など電波を受信しやすい所でお使いください。
  - ①電池ホルダーの⊕/⊖表示に合わせて電池を4個入れる  
電池の⊕/⊖を逆に入れると、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
  - ②強制受信ボタンを押す  
針は、早送りで4、8、12時のいずれかに移動して、受信が終わるまで停止します。  
※電池を入れた後は、必ず強制受信ボタンを押してください。
  - ③**時計の掛けかた**に従って、時計を確実に掛ける
  - ④16分待つて結果を確認する  
受信を最長で16分程度行い、受信が終わると針が早送りで時刻位置に移動します。受信に成功すると電波マークが点灯します。
- 標準電波—受信の流れとサーチ機能の使いかた** 参照。
- 受信に失敗した場合は、**標準電波を受信できない場合** を参照してください。
- 受信に成功してもノイズにより誤った時刻を表示することがあります。このようなときは、場所を変えて強制受信ボタンを押してください。
  - 受信に失敗している場合は、表示されている日時は正確ではありません。

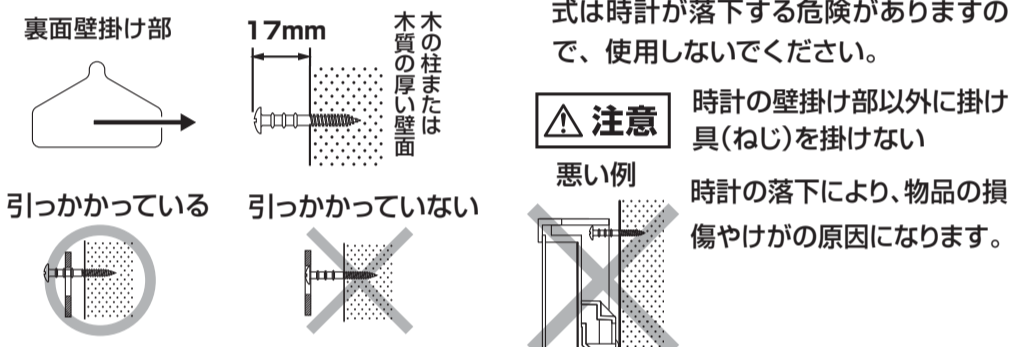
## 設置について

- 注意** 一般的な家庭やオフィスの室内用です。粉じんが多い所、水がかかる所、結露する所では使用しないでください。故障や誤作動の原因になります。
- 空気がよく循環する場所に設置してください。
- 直射日光が当たる場所や冷暖房器具、加湿器、除湿器などの近くを避けてください。
- 屋外、温室、サウナ、プール、温泉、浴室、冷蔵庫、車の中では使用しないでください。
- 設置する高さによっても温度や湿度が変わります。
- 湿度は「空気のかたまり」として移動するため、同じ室内でも風通しのよい所と悪い所では違いがでます。

## 時計の掛けかた

- 注意** 掛けかたが不適切な場合、時計が落下する危険があります。
- 掛けるときは、上下、左右に軽く動かして、掛け具(木ねじ)に壁掛け部がしっかり掛かっていることを確認してください。
- 垂直に掛けてください。傾くと掛け具から外れるおそれがあります。
- 市販の掛け具を使用するときは、壁掛け部にしっかり掛かるものを選んでください。
- ドアを開閉するときの振動が伝わらない所に設置してください。

■付属の木ねじを使用できる場所は、木の柱または木質の厚い壁面です。  
●木ねじは下図のとおり、壁面にしっかりねじ込んで固定してください。



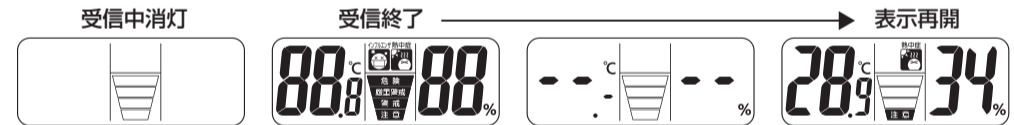
## 温度・湿度、注意報 (インフルエンザ/熱中症) について

センサーが本体内部にあるため、表示に反映するまでには時間がかかります。温湿度の測定は1分間隔で行います。

測定ができないときの表示

温度	[HH.H] 50℃より高温	[LL.L] -9.9℃より低温
湿度	[HH] 90%RHを超えている	[LL] 20%RH未満
	[--]	測定不能 (温度が5~50℃の範囲外)

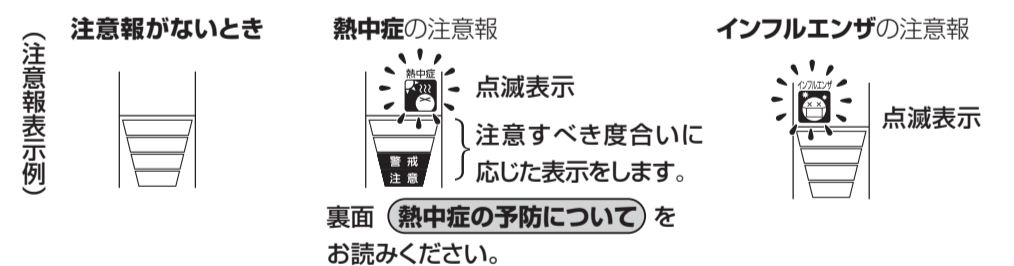
- 次のようなときは、温度・湿度と注意報を表示しません。
- 強制受信ボタンを押して、電波の受信を行っているとき。
  - 暗い所で自動受信を行っているとき。



- 電波受信機能がOFFのときに、強制受信ボタンを押すと温度・湿度と注意報は一度消灯してから表示を再開します。

## 注意報の表示 (環境の目安表示)

※表示は発生の有無を断定するものではありませんので、空調や体調管理などの目安としてお使いください。また、公的機関から発表される「注意」や「警報」とは一致しないことがあります。



## 光、音による警告について (警告スイッチ)

警告スイッチを「光」または「光&音」にすると、注意報の状態に応じて定期的に15秒間、音や光でお知らせします。  
光 : 警告ランプの点滅でお知らせします。  
光&音 : 警告ランプの点滅と警告音でお知らせします。  
OFF : 音や光ではお知らせしません。  
※音量や明るさの調節、暗くなると自動停止する機能はありません。

- 使用を開始するときに、モニターボタンで警告がどのように変わるか確認してください。
- インフルエンザマーク点滅** : 30分間隔でお知らせします。  
**熱中症マーク点滅** : 注意すべき度合いによりお知らせする間隔や警告ランプの点滅のしかた、鳴りかたが変わります。
- 注意 お知らせしません。
  - 警戒 30分間隔
  - 嚴重警戒 20分間隔
  - 危険 10分間隔
- ※注意すべき度合いが変わるときにもお知らせします。

## 注意報の表示と音と光による警告のしかたを確認する (モニターボタン)

モニターボタンを押し続けると、表示が警戒、嚴重警戒、危険、インフルエンザと変わり、これらに応じて警告音や警告ランプが変化します。モニターボタンを離すと止まります。  
○強制受信ボタンを押して電波を受信しているときは使用できません。

## 照明の使いかた……………暗くなると文字盤面を照明する

明るさ選択スイッチを「強」または「弱」にすると、明暗センサーに連動して、暗くなると文字盤と液晶表示部を照明します。OFFは点灯しません。

- 照明しているときの液晶表示は正面および上方からは読み取れません。下方より見てください。
- 電波を受信しているときは、受信しやすくするために消灯します。